

ワンニャン通信

H.27
7月



担当:中島

今月は知っておきたい高齢期のワンちゃんネコちゃんとの暮らし方です。

みなさんのお家のワンちゃんネコちゃんは何歳ですか？うちのチビ(犬雑種♀)は14年目の高齢期です。

見た目には若い時とあまり変わりなく元気に見えて、歳を取るとワンちゃんネコちゃんの身体には、様々な変化が起こります。日頃の行動から身体の変化を見つけることも大切です。変化の内容によっては、老齢性疾患のサインである場合もあるんですよ。



～老齢のサインに気づいてますか？ワンちゃんネコちゃんのチェックリスト～
高齢期に気を付けたい病気のサインは、次のような様子やしぐさ、症状として表れます。

- | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 歩き方がぎこちない | <input type="checkbox"/> 寝ている時間が増えた | <input type="checkbox"/> 水をたくさん飲む、尿の量も増えた |
| <input type="checkbox"/> 目が白く濁ってきた | <input type="checkbox"/> 高い所に登らなくなったり | <input type="checkbox"/> 物にぶつかるようになった |
| <input type="checkbox"/> あまり遊ばなくなった | <input type="checkbox"/> 痩せてきた | <input type="checkbox"/> 名前を呼んでも反応がないことがある |
| <input type="checkbox"/> 便が硬くなった | <input type="checkbox"/> 毛が白っぽくなったり | <input type="checkbox"/> 散歩に行くとすぐ疲れて息が上がる |

加齢に伴う身体の変化

回復能力・免疫力・環境の変化やストレスに適応する能力・筋肉量・関節機能
聴力・嗅覚機能・視力・食欲・運動能力・体力・反応性・食欲・視力・聴力・基礎代謝

低下します

傷の治りが遅い、疲れやすい・感染しやすい、腫瘍ができやすい、肥満になりやすい、
白内障・関節の病気・心臓病・腎臓病・糖尿病・副腎の病気・認知症

～シニア期のワンちゃんネコちゃんに普段からお家で出来ること～

ワンちゃんは免疫力低下にも配慮を

ワンちゃんは歳をとると筋肉が減って脂肪がついてしまったり、免疫機能や内臓の機能なども低下することがあります。高齢期のワンちゃんには筋肉を維持するための質の良いたんぱく質と健康を維持するための抗酸化成分を豊富に含んだ食事を選びましょう。

ネコちゃんは環境の見直しが必要

ネコちゃんは年齢とともに視力や聴力が落ちてきたり、足腰が弱くなったりします。なるべく高い段差をなくしたり、低めの足場を置くなどの配慮をしてあげましょう。



肥満の予防

肥満は様々な病気のリスクを上げ、寿命を短くしてしまうことが分かっています。高齢期は基礎代謝が低下し、筋肉量や運動量も減るので、若い頃と同じ量を与えると太ってしまいます。カロリーを控えても必要な栄養が満たされるように設計された食事がお勧めです。



運動を調整しましょう

高齢期に入っても適度な運動は推奨されます。持病がある場合、無理な運動は禁物ですが、運動を完全にやめると筋肉量が減り、体力も落ちます。それぞれのワンちゃんネコちゃんに合った適度な運動量を見つけてあげましょう。



聴力が落ちてきいたら

聴力が落ちたワンちゃんネコちゃんは家族が近づく音が聞こえず、急に触れられて驚き、時に攻撃的になる場合があります。「少し大きな高めの声で呼びかける・手を叩く・急に触らない」などの点に気をつけましょう。



視力が落ちてきいたら

視力が低下すると、「物がぶつかる・段差を踏み外す」などの恐怖心で、落ち着かないなどの行動が見られます。視力が低下しても家の中の物の配置は覚えていますが、声をかけてガイドしてあげたり、家具などの配置に考慮しましょう。

ワクチン接種・フィラリアの予防・太らせない・正しい食生活・ストレスを少なくする正しいコミュニケーション・定期的な健康診断など…。



1日でも長く、
健康に生活
できるよう
にする為の基
本だよ！